谷村地区

其の二

下谷　曹洞宗　大慈山円通院　長生寺末

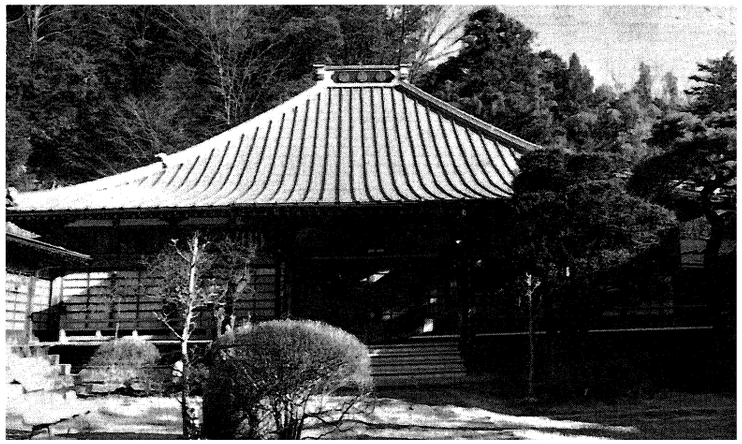
末寺は林照院、東光寺の二ヵ寺。

本尊由緒

本尊は釈迦牟尼仏、坐像。像長42cm、肩巾20cm、膝張り31cm、面長12cm、面巾8cm、

合祀仏

観世音菩薩、地蔵菩薩、薬師如来、十王尊、達磨大師、大権修利菩薩、毘沙門天。



円通院　本堂

興起縁由

甲斐国志に「開基梅岩全芳居士享禄三年卒、初円通庵と称し観音を本尊として竹が鼻に創造。中興喚室一応和尚修造元和九年八月七日寂。寛永十年秋元氏領知の初領主の計として諸堂を今の地に移し円通院と改む」と記録されている。

開山履歴

広巌大通禅師譫語集巻之八、広巌列祖法灯伝賛、融山宗祝禅師伝に曰「長生第三祖甲之円通為[一]始祖。」禅師諱宗祝、字融山。嗣[二]法積桂[一]、武蔵州荏原郡人云云」

また当院歴代住職録にも、開山は長生三世一道光円禅師融山宗祝と記されている。

結構規模

本堂、庫裡、薬師堂、総門、山門、朱雀門、鐘楼、廻廊、六角堂、倉庫、保育園舎等諸堂が整備されている。

歴代住職

開山一道光円禅師融山宗祝―二世祖月教―三世月海舟―四世正宗印―五世覚海教―六世閑外域―七世閑室秀―八世徳巌要―九世大澄乗―十世祖海宗―十一世徳芳隣―十二世滑岸熊―十三世花山瑞―十四世大道祖宗―十五世大安祖道―十六世仏心教道（現住）

古器　什器　宝物

本堂杉ふすまの絵画

五石橋

手押ポンプ一台（徳川末期のもの）
郡内三十三番観音札木版
地蔵尊、像長17㎝、桐材、木食上人作。
「木食自在坊作」と刻銘されている。

恒例の宗教行事

正月祈禱法会、施餓鬼会、薬師縁日。

民間信仰

山の神の祭典がある。

円通院　本尊

民話

「竹藪守りの円通院」という民話が古くから言い伝えられている。

下谷

天台宗　御岳山明星院

本尊由緒

本尊は蔵王権現で、合祀脇士は、不動明王、孔雀明王である。明治二十三年、相川薫道が奈良県吉野山に修業に上り、数年の修業を積まれ、山伏の元祖である蔵王大権現を祀り今日に至っている。

興起縁由

平安時代後半、日本古来の山岳信仰と仏教の密教的性格とが習合され、修験道が登場した。

修験道の先駆者は、役小角（えんのようかく、又はえんのおづぬと云う）である。役小角は舒明天皇の六年（六三四）の生れで、十七才で発心して生駒山に入り修行を積み、蔵王権現

明星院　本尊

を積み、蔵王権現を感得し、大宝年間山伏の道修験道を開いたと伝えられている。

結構規模

境内地四〇〇坪
庫裡、本堂併せて三〇坪

歴代住職

創立一世相川薫道　二世相川慈乗　三世相川昇龍　四世相川昇範（現住）

寺宝

薙刀、全長220㎝、穂先50㎝、

行事

五頭天王祭（七月）　八朔祭

下谷

日蓮宗　大法山東漸寺　身延山久遠寺末

本尊由緒

本尊は宗祖奠定の大曼荼羅である。現在の本尊は京都立本寺二十代貫主雪鷲院日審の筆である。

東漸寺　本堂

合祀

日蓮聖人木像坐体、像長24㎝、膝張り19㎝、肩幅13㎝、面長8㎝、面幅55㎝、。

七面山坐像。像長40㎝、膝張り16㎝、肩幅11㎝、面長7㎝、面幅5㎝、鬼子母神、像長34㎝、肩幅9㎝、面長7㎝、面幅5㎝の木像立体。

興起縁由

当山は元真言宗に属す。開基高明院日理上人。俗姓平姓、北

条相模守重時嫡男石川式部丞勝重である。勝重幼にして深く仏道を究め当地に隠遁し一宇を建立し真言の密法を伝う。号して高明院という。元徳元年富士郡大石寺二世日目上人当地に遊化し法華の妙典を唱う。勝重随喜して日目の弟子となり法名を日理と改め、日目を請して開山とし、山号を大法山、寺号を東漸寺とし改宗して大石寺の末院となる。永徳二壬戌年信愛院日城上人三世住職となる。文元年間教運坊阿闍梨日感上人が住持となり、身延山に登り貫主日伝上人に謁し帰依して改派、身延直末の許状を受けた。享保九年甲辰十一月六日、十四世智定院日体が身延に登り貫主日裕より聖跡補任状を得これより上人寺となった。現住石川慶進師は第廿八世である。

開山履歴

開山日目上人（正慶二年十一月十五日寂）は、六老僧白蓮阿梨日興上人の弟子にして、蓮蔵阿闍梨日目上人と称した。なお日目上人は、駿河富士郡安居村東漸寺、同国神原東漸寺、谷村東漸寺の三刹を創建した。その中で谷村東漸寺が最初の創立である。

しかし、天文年間、元禄七年十二月、昭和二十四年五月十三日の三回にわたって類焼している。

結構規模

境内地二反六畝十八歩。

〔本堂〕木造トタン葺 7K×5.5K。

〔庫裡〕木造トタン葺 7K×2.5K。

〔付属建物〕

山上に七面堂がある、間口四尺、奥行六尺。

古器什器宝物

板三宝本尊　天文十九年三月二十八日、身延十四祖日鏡在判願主大覚坊日城。

本尊一幅、開山日目上人筆。

一編首題、日照上人筆

繻子織題目並に日遠影像一幅。

ワニ口、天保二年正月、願主甲州郡内川合村田掃部母、当山十八世日融代。

石仏

庚申碑（石祠型）、

日蓮聖人像、文政三年庚辰二月施主妙円比丘尼。

行事

十月十二日～十三日宗祖御会式。

伝説

当山の今の本尊は、本山京都立本寺二十世貫主日審の筆である。

日審は江戸初期の人、近衛信尋、二条康道の招きにより法華経を講じたが、後水尾上皇も講莚に列せられ叡慮あって、「いまや仏法において疑うところなし」と仰せられ、立本寺に八条智親王によって園林堂が建てられた。日審は学問にすぐれ、弁説に秀で西は九州より東は関東に及び遊化した。その説法の回数は二万余座、受法の人九万金に及んだと伝えられている。

日審の生れには不思議な説話が伝えられている。

日審は京都の江村久茂三男で、母は臨月の身をもって急死した。菩提寺の墓地に葬られたが、二、三日して墓所に幽霊が出る。赤ん坊の泣き声がするという噂さが広がった。付近の人々は、「或は」と危ぶんで墓地を堀り起したところ壺の中に赤ん坊が生れていた。この赤ん坊が後の日審である。

東漸寺　本尊

日審の花押が壺の形をしているのもそのためである。

東漸寺　七面さん

東漸寺　鬼子母神

ある。それからは「安産守護の日審上人」といわれ、今も産婦の尊信するところとなっている。

日審は寛文六年三月十五日、六十八才にて遷化されている。

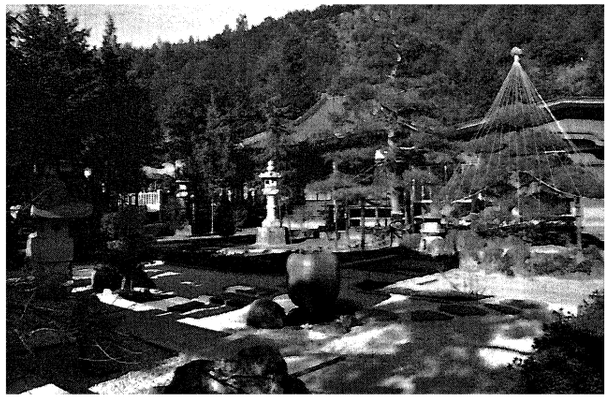
下谷

真宗大谷派　向富山専念寺　東本願寺末

本尊

阿弥陀如来

合祀仏に次の絵像がある。



専念寺　本堂

1.親鸞聖人絵像
2.七高僧の絵像
竜樹（印度）
天親（印度）
曇鸞（支那）
導綽（支那）
善導（支那）
源信（日本）
源空（日本）＝
然然
3.聖徳太子像
4.大谷派本願寺六
世法主従如上人
像

〔鐘楼堂〕欅造りにて鐘は百二十八貫、昭和四十八年完成。

歴代住職

開基	天恭院釈玄意法師	天正八年八月七日示寂	
二世	幸臨院釈玄泰法師	在職年数二十八年 慶長十二年四月三日示寂	
三世	一真院釈空円法師	在職年数二十八年 寛永十三年十月十九日示寂	
四世	易往院釈空謙法師	在職年数十九年 明暦一年六月十八日示寂	
五世	皆往院釈空遜法師	在職年数二十四年 延宝七年十月十三日示寂	
六世	遊神院釈利円法師	在職年数十八年 元禄十年七月六日示寂	
七世	宝池院釈祖伯法師	在職年数十三年 宝永七年十一月十七日示寂	
八世	華蔵院釈江円法師	在職年数三十二年 寛保二年九月二十五日示寂	
九世	遠海院釈祐順法師	在職年数七年 寛延二年十一月二十日示寂	
十世	満如院釈祐恵法師	在職年数十七年 明和三年二月十日示寂	
十一世	光暁院釈大円法師	在職年数十三年 安永八年六月二十七日示寂	
十二世	松寿院釈大秀法師	在職年数四十五年 文政七年四月二十日寂　八十二才	
十三世	信浄院釈大心法師	在職年数十三年 天保八年五月十六日寂　五十五才	
十四世	真得院釈大潤法師	在職年数四十九年 明治二十年四月十二日寂　七十才	
十五世	徳母院釈謙亮法師	在職年数九年 明治二十八年八月二十二日寂　五十五才	
十六世	成徳院釈謙道法師	在職年数五十二年 昭和二十二年十二月二日寂　七十九才	
十七世	大樹院釈正頴法師	在職年数十五年 昭和三十七年十月十三日寂　六十六才	
十八世	現住　釈正樹		

興起縁由

加畑より現在地に移されたと伝えられているが、創立年代並びに移転年代等不詳。

結構規模

〔本堂〕二十八坪　昭和二十四年建立。
〔客殿〕四十二坪。　庫裡　二十六坪。

古器、什器、宝物、

本尊阿弥陀如来
宗祖親鸞聖人御筆像
和国教主聖徳太子御軸
宗祖大師御絵伝四幅掛軸
過去帳

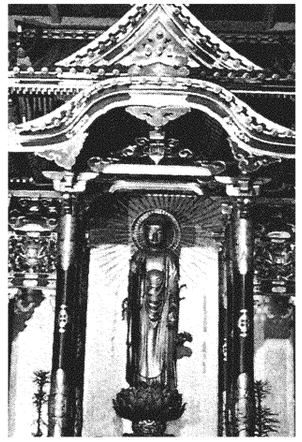
宗教行事

修正会　一月一日―一月三日　彼岸会　春秋　永代経会　四月十七日　宇蘭盆会　八月十三日～十六日
報恩講　十一月二十三日　宗祖大師御正忌　十一月二十八日　宗祖大師例月命日（二十七日）　先住例月命日（十三日）

忘録

昭和二十四年五月十三日未明における谷村横町末曾有の大火に際し、三百有余年の歴史を有する当山も、本堂、庫裡、総門、中門、山門、鐘楼等一切の建物を烏有に帰してしまった。
そのうち
御本尊　阿弥陀如来　宗祖大師親鸞聖人御筆像　和国の教主聖徳太子御軸　過去帳
などは共に御安泰無事奉遷し、寺院護持の第一義を明かし、その後の信仰の源泉となり今日に至っている。

焼失建物
〔本堂〕旧藩主秋元侯菩提寺泰安寺の堂宇　〔庫裡〕玄関　大工棟梁藤井綱吉若心の作　〔総門〕石造、赤沢孝平寄進　〔山門〕三門、欅造　彫刻、瓦葺　〔鐘楼〕庫裡門等。



尊本　寺念専

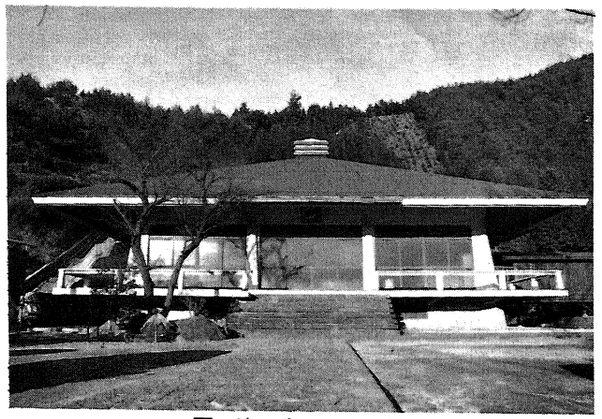
専念寺　鐘楼堂

焼失寺宝
蓮如上人御真筆御名号　一軸　大正新修大蔵経　全百巻
真宗経典類
向富山の額　九条道隆公筆　一面
七条袈裟　五領
その他法衣類一切
雪舟筆富士山の図　一軸　四書五経、十二経等　漢籍類
老大杉　五
樹齢三百年より四百年のもの
公孫樹　樹齢約四百五十年　当山のシンボルであった。

下谷
浄土宗　古今山西涼寺　智恩院末

本尊由緒

阿弥陀如来　木像坐体、像長52㎝、膝張り43㎝、面長17㎝、



西涼寺　本堂

面巾12㎝、脇士は観音、勢至両菩薩

中津森の「光り堂」という真言宗所属の堂をもとにしその本尊阿弥陀如来を移して安置されたものである。末寺は四ヵ寺ある。

興起縁由

鳥居元忠が城下町造りをはじめた頃、里長であった里吉弥次右衛門を開基として此の寺を開かれた。里吉家は代々曹洞宗であったが、同氏が信仰していた中津森の「光り堂」の本尊阿弥陀如来を移し皈依していた。

甲斐国志に次の如く記されている。

開山信蓮社深誉上人林徹和尚は増上寺中興観智国師の弟子なり専修念仏の法を学び得達の後谷村に来り称名院と云へる小庵に寓居し念仏法を弘め数多化度しけるに里吉弥次右衛と云者、皈依し大檀那となり精舎を建立して古今山西龍寺と号す後西涼寺と改む中略　開基弥次右衛門法号里吉院成誉転覚居士七月十五日卒年不祥。」

開山履歴

開山深誉上人は、江戸神田の生まれで、父は矢代氏、母は中村氏といわれ武家の出であったらしい。増上寺中興上人観智国師の宗脈を相承され、また後年鎌倉の光明寺において付法相承された。

開山上人が谷村に来たのは、鳥居元忠が城下町を造り始めた頃といわれている。

里吉弥次左衛門を開基として西涼寺を開き教化に努められた。続いて慶長元年（一五九六）正月殿上（大月市）の阿弥陀寺を復興し、翌年悟安寺を開創。慶長六年花咲（大月市）に西方寺を開きそれぞれ西涼寺の末寺とした。元和二年六十四才で示寂された。

結構規模元禄八年（一六九五）十二月三日の大火にあい堂宇悉く焼失。その後七年間にわたって本堂庫裡を再建。昭和二十四年五月十三日の谷村大火により再び全焼す。

現在の本堂、庫裡等の建物は、昭和二十四年の大火以来二十三年間の歳月を経て堂宇悉く復興。　昭和四十七年五月二十一日落慶。

〔高さ〕軒高5㎝、棟高12m20㎝、

〔構造〕鉄筋コンクリート造りにて、地下一階、地上一階建、屋根宝形アスファルトシングル葺。

〔鐘と堂〕梵鐘は直径90㎝、高さ160㎝、重さ一トン。鐘堂は一本柱鉄筋コンクリート造り。

〔掲示伝道所〕都留市駅前、高さ150㎝、長さ370㎝、コンクリート造ボンタイル吹付。

歴代住職

開山　深誉林徹　元和二年八月二十八日寂　世寿六十四才　阿弥陀寺　悟安寺　西方寺開山

二世　旭誉聞貞　寛文十一年寂　世寿八十八才　宗安寺開山　山梨養安寺中興

三世　正誉念死　万治三年寂　江戸西方寺開山　江戸大雲寺二代

四世　超誉伝公　寛文四年寂　山梨市法蔵寺開山

五世　玄誉真覚　寛文十二年寂

六世　光誉寿覚　元禄十一年寂　本尊の修理と脇侍新造

七世　誓誉覚全　貞享二年寂

八世　儀誉霊樹　宝永四年寂　都留市下町枇屋の出生

九世　敬誉巨信　延享二年寂　都留市戸沢正蓮寺出生

十世　仰誉覚円　延享五年寂　都留市戸沢正蓮寺出生

十一世　宣誉弁忠　明和九年寂　朝日夏地出生

十二世　勇誉覚応　天明六年寂　大月市真木正念寺出生

十三世　諦誉弁善　文化五年寂

十四世　戒誉栄順　文政三年寂

十五世　見誉生潤　弘化五年寂

十六世　得誉見成　安政四年寂

十七世　善誉生充　大正十四年寂　西桂町境出生

十八世　然誉生順　昭和九年寂　都留市川茂西光寺出生

十九世　観誉弁覚　現在

古器什器宝物

観智国師自署自筆一幅　観智国師筆、善導円光両大師画像二幅対　錦九条袈裟、観智国師が二代将軍より拝領の品　古硯一枚、開山使用の硯、27㎝×10.7㎝×1㎝、徳川家康消像一幅　甲斐国志に関する書物　慈巧聖人神子問答上下、天文十九年二月沙門深誉　立正安国論、文応元年正月沙門深誉　浄土安心抄、深誉直筆大原見聞　永享十年十一月十五日深誉　古今山月牌料記、享保二十九天乙卯正月吉日九世敬誉。

行事

修正会　一月一日　御忌正当法要　一月二十五日　春秋彼岸会　涅槃会　御忌法要　四月二十五日　降誕会四月八日　宇蘭盆会並に施餓鬼会　十夜法要　十一月二

十五日　成道会　十二月八日　除夜の鐘　十二月三十一日

民間信仰行事

初午祭　新暦二月初午。当山鎮守儀秀稲荷社の初午祭、儀秀講によって毎年盛大に行われている。

儀秀稲荷大祭　五月十三日、谷村大火記念日。

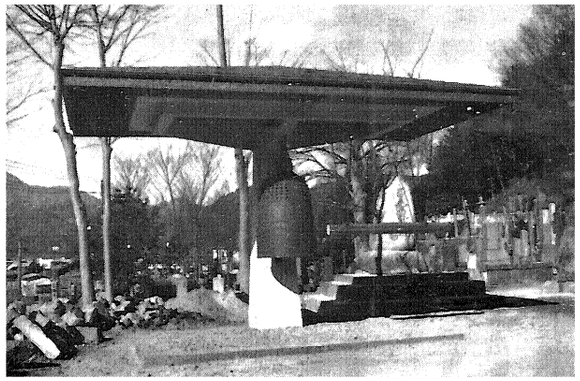
儀秀稲荷社は、もと秋元家の三代喬朝公をまつった稲荷社で、宝永年間、元禄罹災の直後、秋元家がお国替になる時当山に遷座したもの。昭和二十四年の大火の際稲荷社だけ残った。大火の日を記念して儀秀講によって祭典が執行されている。

講員は都留市全域から富士吉田市、さらに東京方面等遠隔地にまで及び、当日は余興も奉納され露店も並んで賑やかである。

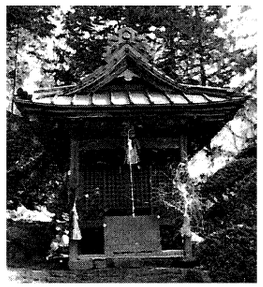
西涼寺　本尊

民話

民話として伝えられているものに、「雨ふりけや木」「いぼ神さん」がある。



西涼寺　鐘楼堂



儀秀稲荷